

「地域の口腔がんを考えるシンポジウム」を受講しました

一般社団法人口腔がん撲滅委員会主催の「地域の口腔がんを考えるシンポジウム」(第4弾関西・四国・山陽陰編の第9回(3月17日、於:大阪福祉会館))を受講しましたので、ご紹介させていただきます。

日本の「口腔がん」の死亡率は、全28部位中第10位「46.1%」(表1)で、米国の2.5倍以上、そして、「口腔がん」は術後のQOLの著しい低下から「自殺率の非常に高いがん」で、WHOでも「早期発見・早期治療」の推進を勧告されている最重要課題の1つでもあるそうです。

日本は先進国で唯一死亡率が増加しており、口腔がんの死亡数と死亡率の大幅低減は急務な課題との事。

シンポジウムの目的は、上記の重要課題を改善する為、歯科医療現場で口腔がんの早期発見・早期治療を現実にするために「地域基幹病院口腔外科と地域歯科医院」で、自らの地域における「口腔がんの早期発見と早期治療」を解決する仕組みを構築することだそうです。これができれば、年間5,000人規模の口腔がん死亡者の命を救うことが可能になるそうです。

2017年5月7日に札幌で、第1弾の北日本編の第1回シンポジウムがスタートして計8回開催、第2弾の西日本編は12回、第3弾の中日本編は8回、第4弾の関西・四国・山陽陰は13回開催されます。今後は第5弾の関東・福井編が開催されるそうです。

今回の座長の森田章介先生の講演「地域口腔がんの実態」では、検診の重要性を色々な方々にご案内していきたいと思いました。代表理事の芝原孝彦先生の基調講演「なぜ、今、口腔がん検診か?」は症例を交えたご講演で分かり易く、早期発見の重要さが良く理解できました。

私は歯科衛生士として、色々な方々に「口腔がん検診、及び、早期発見の重要性」をご案内していきたいと思います。

そして、口腔がん撲滅運動の象徴である「レッド&ホワイトリボン」を身につけて、微力ながらも、口腔がん撲滅運動に参加させて頂きたいと思っております。

(歯科衛生士、第二種歯科感染管理者、健康管理士 上牧左右子)

表1 <口腔がんの罹患数と死亡者数>

部位	罹患数	死亡数	死亡率
1 膵臓	32,330	30,672	94.9%
2 胆のう・胆管	22,636	18,225	80.5%
3 白血病	11,484	8,133	70.8%
4 肺	107,241	72,734	67.8%
5 多発性骨髄腫	6,356	4,121	64.8%
6 肝臓	47,271	30,175	63.8%
7 食道	21,427	11,543	53.9%
8 卵巣	9,918	4,717	47.6%
9 悪性リンパ腫	23,919	11,340	47.4%
10 口腔・咽頭	15,560	7,179	46.1%
11 脳・中枢神経系	4,825	2,198	45.6%
12 結腸(大腸)	78,874	32,682	41.4%
13 腎臓	21,130	8,594	40.7%
14 膀胱	19,219	7,685	40.0%
15 胃	125,730	48,632	38.7%
16 子宮頸部	10,737	2,656	24.7%
17 直腸(大腸)	76,871	14,972	19.5%
18 喉頭	4,970	963	19.4%
19 乳房	68,071	13,148	19.3%
米国: 口腔・咽頭	41,380	7,900	19.1%
20 子宮体部	11,793	2,107	17.9%
21 前立腺	64,934	11,560	17.8%
22 甲状腺	13,374	1,742	13.0%
23 皮膚	14,863	1,525	10.3%
その他	27,632	16,299	59.0%

出典: 2013年国立がんセンター



(地域の口腔がんを考えるシンポジウムのチラシ)  
<https://www.oralcancer.jp/>



(口腔がん撲滅運動の冊子)



(レッド&ホワイトリボン)